



南台 校長室だより

令和3年度

No. 103

J-COM中野、水曜または木曜の18:00～「つながるNEWS」で放映予定

「かっぱまつり」の開催…みんな笑顔

先週の土曜、2年ぶりに「かっぱまつり」が当日開催されました。たくさんの方が来場しました。さわやかな青空の下、様々な年代の方の楽しいそうな顔をたくさん見ることができ、とてもうれしい気持ちで一杯になりました。感染症が収まってよかったです。

開催は、様々なことに支えられていました。準備、努力、働き、連携、尽力…どれも地域の子供たちのために、何とか開催しようが共通のことで、テーマが「みんなわくわく つながろう！ 南台」となりました。

昨年度は準備が90%以上進んでいたにもかかわらず、当日実施を見送りました。しかし、そこまで準備を進めた経験は今年の実施に当たり、大変な力になっていました。まず、実施に当たっての考え方です。昨年と同じように、地域の皆さんが検討の際、常に心がけていらっしゃったのが、感染症対策は万全に進めることを前提に、次のようなことでした。

- ①防災も兼ねたこの南台地域恒例のかっぱまつりを実施するにはどのようなことが大切にしていけるか考えよう。
- ②様々な学校行事、地域行事が中止になったり、縮小している中でも、子供たちのためにもどんなことができるのか考えよう。
- ③安易にできない、やらないではなく、何ができるか、どうしたらできるかをまず考えていこう。
- ④実施が難しく見送りとなれば、すぐに取りやめられるようにする。そのために取りやめのダメージがないような実施計画にしよう。

このことは既に浸透していて、実行委員会立ち上げの際にも地域の皆さんが当たり前のように頷きながら確認できました。

そうすれば、事務局であるみなみ児童館の里方館長を中心にまつりの準備は動き始めます。昨年考えていたけれど、できなかったゲームを早速取り入れます。景品をしっかりと素敵に袋詰めすることには皆さんが慣れていて、流れ作業も見事でした。雨天時の対応もしっかり考えられています。放送委員にまつりの案内をする依頼があり、お昼の放送でお知らせしました。児童館で子供も手伝っての表示づくりも進みます。

申し込みの日に吉成実行委員長から子供たちにメッセージもいただきわくわく感が増しました。申し込み場所では、雨が降ってもすぐに担当の方々が相談、学校の部屋を上手く使いながらスムーズにできました。

申し込みの人数が分かってくるとまつりのイメージも膨らんできて、さらに楽しみになると同時に、初めてのこの会場での工夫も考えてくださっていました。本校の音楽隊の出演もお願いできました。貴重な出演の場面です。前日準備にもたくさんの方々がかわっての当日でした。

そして当日、南中ボランティアのお手伝いで準備も進み、音楽隊演奏「ワタリドリ」のオープニングからスタート、たくさんのゲームコーナーを回ります。どのコーナーも「できた！」、「やったあ」の声が響きます。ゲームが終わっての「ありがとう」もたくさん交わされました。

最後には町会ごとに景品をもらって帰ります。たいへんあたたかい雰囲気、笑顔いっぱい、「ありがとう」が行き交うかっぱまつりでした。

